

## $p$ 群と corestriction algebras

北大理学部 池田 正 (Tadashi Ikeda)

M. Broué, L. Puig は誘導加群を環論的に一般化して corestriction algebra を導入し、いくつかの応用を与えている ([2], [5])。これの基礎は M. Broué によるイリノイ大の講義としてまとめられているが、邦語では澤島 [6] による簡潔な紹介がある。ここでは次の誘導加群と block に関する D. Barry の結果 (定理 2.1) を corestriction algebra にまで拡張することを目標とする。

### 1. interior $G$ -algebra と corestriction algebra

記号は以下の通りとする。

$(\mathcal{O}, \mathfrak{m})$  : complete discrete valuation ring with maximal ideal  $\mathfrak{m}$

$k = \mathcal{O}/\mathfrak{m}$  : characteristic  $p > 0$

$R = \mathcal{O}$  または  $k$

$B(e)$  :  $G$  の  $p$ -block  $e$  の  $e$  がその central primitive idempotent

$D(B)$  :  $B$  の defect group

定義  $A \in$  有限生成  $R$ -algebra.  $\gamma \in L$ .  $R$ -algebra homomorphism  
 $f: RG \rightarrow A$  が与えられた時.  $A_f \in$  interior  $G$ -algebra とする.

定義  $B_f \in$  interior  $RH$ -algebra (但し  $H \leq G$ ) とした時.

$$A = RG \otimes_{RH} B \otimes_{RH} RG$$

$$(積) (g_1 \otimes e \otimes g_2^{-1})(g'_1 \otimes e' \otimes g_2'^{-1}) = \begin{cases} 0 & g_2 H \neq g'_1 H \text{ のとき} \\ g_1 \otimes e \cdot f(g_2^{-1} g_1) e' \otimes g_2'^{-1} & g_2 H = g'_1 H \text{ のとき} \end{cases}$$

$$f_H^G(x) = \sum_{g \in [G/H]} xg \otimes 1 \otimes g^{-1}$$

(但し  $g_1, g_2, g'_1, g'_2, x \in G, e, e' \in B$   
 $[G/H]$  は  $G$  の  $H$  に対する left coset の代表系)

とおくと interior  $G$ -algebra を作る. これは  $B_f$  の corestriction algebra とする ( $Cor_H^G B, f_H^G$ ) と記す.

interior  $G$ -algebra, corestriction algebra の性質は澤島 [ ] にゆずるが.  
 加群との関係は. これは丁度.  $M \in RG$ -加群としたとき.  $A = End_R(M)$

$f: RG \rightarrow End_R(M)$ : 表現とおくと  $A_f$  は interior  $G$ -algebra になり  
 $H \leq G$  に対して  $M \in RH$ -加群とし  $Cor_H^G(End_R(M)) f_H^G$  が.

$End_R(M^G) f'$  ( $f'$  は  $M^G$  の表現) と同型となることである (例 example 3)  
 なおその他の記号は澤島 [ ] に従った様にする.

$A_f \in$  interior  $G$ -algebra としたとき

$$H \leq G \text{ に対し } A^H = \{a \in A \mid f(h^{-1}) a f(h) = a \text{ for } \forall h \in H\}$$

$$H \leq K \leq G \text{ に対し } Tr_H^K: A^H \longrightarrow A^K$$

$$\downarrow \quad \downarrow$$

$$a \longmapsto \sum_{R \in [H \backslash K]} a^R = \sum_{R \in [H \backslash K]} f(h^{-1}) a f(h)$$

$\text{Tr}_H^k(A^H) = A_H^k$  とし、 $A_H^k$  は  $A^k$  の両側 ideal となる。

$P \leq G$  :  $P$ -部分群 とし、 $I^P(A) = \sum_{0 \neq p} A_0^P + \sum A^P$  とすると  
 $I^P(A)$  は  $A^P$  の両側 ideal となる。この時、標準写像

$$A^P \longrightarrow A^P / I^P = A(P)$$

を  $\text{Br}_P$  で表し、 $P$  による Brauer homomorphism と呼ぶ。

$H \leq G$  とし、 $B_P \in \text{interior } H\text{-algebra}$  とし、 $A = \text{Cor}_P^G B$  とする。

今、 $g, g' \in G$  に対し  $e_{gg'} = g \circ 1 \circ g^{-1}$  で表すと

$$\{e_{gg'} \mid g, g' \in [G/H]\}$$

は  $A$  の  $R$ -基底 をなし、 $g, g', h, h' \in [G/H]$  に対し

$$e_{gg'} \cdot e_{hh'} = \delta_{g'h} e_{gh'} \quad (\delta_{g'h} : \text{Kronecker の記号})$$

が成立する。

以下、interior algebra, corestriction algebra のいくつかの性質を述べ  
 ておく。

(1-1)  $H \leq G$  で、 $B_P, B_{P'}$  を 2つの interior  $H$ -algebras と

$\ker P \subset \ker P'$  が成立すると仮定すると  $\ker P_H^G \subset \ker P'_H^G$  が成立  
 する。更に  $P$  が injection ならば  $P_H^G$  も injection となる。

(証明) 以下、 $G$  の元  $g$  に対し  $g = \bar{g}g$  ( $\bar{g} \in [G/H], g \in H$ ) と

表すとにする。今  $RG$  の元  $x = \sum_{g \in G} a_g g$  が  $P_H^G(x) = 0$  を満たし

てゝと仮定する。定義に任せて次の式が成立する。

$$\begin{aligned} P_H^G(x) &= \sum_{g \in [G/H]} \sum_{h \in [G/H]} \left( \sum_{y \in H} a_{ghy} g^{-1} P(g^h y) \right) P_{g^h} g \\ &= 0 \end{aligned}$$

とこより、 $g, h \in [G/H]$  に対し  $e_{gh} \cdot g$  はすべて異なっているから、 $\text{Cor}_H^G B$  の基底をなす。よってすべての  $g, h \in [G/H]$  に対し

$$\sum_{y \in H} a_{ghy}^{-1} f(ghy) = f\left(\sum_{y \in H} a_{ghy}^{-1} gh \cdot y\right) = 0$$

が成立し  $\ker f \subset \ker f'$  より

$$\sum_{y \in H} a_{ghy}^{-1} f'(ghy) = 0$$

となり、逆に  $f = 0$  である  $f'(x) = 0$  がいえ 証明される。||

次の例も後に利用される

(1-2)  $P \triangleleft G$  :  $P$ -群,  $f_P: RP \rightarrow R$  : augmentation map とし、

$(\text{Cor}_P^G R, f_{op}^G)$  を作ると、 $RG$  の任意の centrally primitive idempotent  $e$

に対し  $f_{op}^G(e) \neq 0$  とする。

(証明)  $(\text{Cor}_P^G R)^G \cong R[G/P]$  となり、natural map  $G \rightarrow G/P$  から作られる  $RG$  から  $R[G/P]$  への準同型  $\varepsilon$  とすると上の同型を通して

$$\varepsilon|_{Z(RG)} = f_{op}^G|_{Z(RG)}$$

が成立する。一方  $\ker \varepsilon \subset J(RG)$  より容易に示される。||

定義  $A_P, A_{P'}$  を interior  $G$ -algebras とし、 $A^G$  の中等元  $e'$  に対し、

$$\begin{array}{ccc} f^{e'}: RG & \longrightarrow & e'A'e' \\ \downarrow & & \downarrow \\ x & \longmapsto & e'f'(x) \end{array}$$

とすると  $(e'A'e', f^{e'})$  は再び interior  $G$ -algebra となる。ここで

$A_P \times (e'A'e')_{pe'}$  が同型な時、 $A_P$  は  $A_{P'}$  に direct embed されるといふこと

呼ぶ。

定義  $A_P \in \text{interior } G\text{-algebra}$  とし,  $\sigma \in \text{Aut}(G)$  とする. この時

$$\cdot A^\sigma = A \quad (\text{基礎の algebra は同じ})$$

$$\cdot p^\sigma: RG \longrightarrow A^\sigma$$

$$\quad \downarrow \qquad \qquad \downarrow$$

$$\sigma \longmapsto \pi(\sigma^{-1})$$

とすると新しい interior  $G$ -algebra  $(A^\sigma, p^\sigma)$  が定義される.

次の2つの補題は容易に示される

(1-3)  $A_P, A_{P_1}, A_{P_2} \in$  3つの interior  $G$ -algebras とし,  $\alpha_i \in$

$A_P \in A_{P_i}$  内に direct embed する homomorphism ( $i=1,2$ ) とする. この時

$A_{P_1}^G$  内に原始中等元  $e_1$ ,  $A_{P_2}^G$  内に原始中等元  $e_2$  があって,  $e_1, e_2$  のそれぞれの defect group ([6] の [1.8] 参) は同じである.

(1-4)  $A_P$ : interior  $G$ -algebra,  $\sigma \in \text{Aut}(G)$  としたとき,

$A^G = (A^\sigma)^G$  となり,  $A^G$  の原始中等元  $e$  に対し  $e$  の  $(A^\sigma)^G$  内での defect group は  $D \in e$  の defect group とし,  $D^\sigma$  となる.

## 2. $p$ -群と corestriction algebras

1. の準備を用いてこの小論の目標である D. Burry の結果の拡張とその証明をこの節で与える.

定理 2.1 (D. Burry)  $P \in G$  の  $p$ -部分群,  $\Gamma \in \text{vertex}$  が  $P$  となる直既約  $kG$ -加群と仮定する. この時 defect group が  $P \in$  含む  $G$  の任意の block  $B$  に対し  $\Gamma^G$  の直既約直和因子で  $B$  に属しかつ vertex が  $P$  となるものが存在する.

これに corestriction algebra に拡張すると次の様になる

定理 2.2  $P \in G$  の  $P$ -部分群.  $B_P$  は interior  $P$ -algebra とし.  $B^P$  は local で.  $B^P$  の原始中等元 1 の defect group は  $P$  と仮定する. この時.  $B_P$  の corestriction algebra  $\varepsilon = (\text{Corp}^G B, P_P^G)$  とし. defect group が  $P$  を含む任意の  $RG$  の centrally primitive idempotent  $e$  に対し  $P_P^G(e) \neq 0$  となり. 更に  $P_P^G(e) = f_1 + f_2 + \dots + f_r$  と  $(\text{Corp}^G B)^G$  内で直交原始中等元分解をすると. ある  $f_i$  に対し  $f_i$  の defect group は  $P$  となる.

証明は次の形に書き直しておこう

定理 2.3 定理 2.2 の仮定のもとで. corestriction algebra  $(\text{Corp}^G B, P_P^G)$  の  $P$  に依る Brauer homomorphism  $\varepsilon: (\text{Corp}^G B)^P \rightarrow (\text{Corp}^G B)(P)$  とし. defect group が  $P$  を含む任意の  $RG$  の centrally primitive idempotent  $e$  とすると  $\varepsilon \circ P_P^G(e) \neq 0$  が成立する.

((2.2) と (2.3) の同値性の証明) Brauer homomorphism による defect group の特徴付け ([6] の (1.8)) と Higmann の criterion の corestriction algebra への拡張 ([1] Ch II (2.7)) を用いて容易に示される.  $\square$

以下 (2.3) をまず  $P \triangleleft G$  の場合示し. 一般の場合を証明する. そのため (2.3) の証明が完結するまで次の記号を用いることにする.

$P$ :  $G$  の  $P$ -部分群.

$B_P$ : interior  $P$ -algebra と Th 2.2 の仮定を満たしているもの

$(A, P_P^G) = (\text{Corp}^G B, P_P^G)$ :  $B$  の corestriction algebra

$e$ : defect group が  $P$  を含む  $RG$  の centrally primitive idempotent.

$\text{Br}_P: A^P \rightarrow A(P)$ :  $(A, P_P^G)$  の Brauer homomorphism

(2.4)  $P \triangleleft G$  とし、 $f \in A^G$  の原始中等元とすると、 $f$  の defect group は必ず  $P$  となり 特には  $\text{Br}_p(f) \neq 0$  となる。

(証明)  $A = \text{Corp}^G B$  内にて  $e_{11} = 1 \otimes 1 \otimes 1$ 、 $P_p^G(g^{-1})e_{11}P_p^G(g) = e_{11}^g$  と記すと  $P \triangleleft G$  より  $e_{11}^g \in A^P$  ( $g \in G$ ) が成立する。更に  $e_{11}$  が  $A^P$  の原始中等元より  $e_{11}^g$  も  $A^P$  の原始中等元となる。(1.4)を用いて  $e_{11}^g$  の  $A^P$  内の defect group は  $P$  となる。次に  $f$  の defect group を  $D$  とおくと容易に  $D \leq P$  がいえる。今  $|D| \neq |P|$  と仮定する。 $f \in A^G \subset A^P$  より  $f$  は  $A^P$  内で直交原始中等元分解するとこの分解内には  $A^P$  内の defect group が  $D$  となるものが現れる。一方  $A^P$  の原始中等元の defect group はすべて  $P$  となるからこれは  $|D| \neq |P|$  に矛盾する。□

(2.5)  $P \triangleleft G$  のとき定理 2.3 は正しい。

(証明) diagram  $\text{REG}^G \xrightarrow{P_p^G} A^G \xrightarrow{\text{Br}_p} A(p)$  において

$\text{Br}_p \circ P_p^G(e) \neq 0$  を示せばよい。(2.4)より  $P_p^G(e) \neq 0$  を示せばよい。

とすると (1.2), (1.1) を用いると、 $P_p^G(e) \neq 0$  が示される。□

次に一般の場合を示すが、次の補題は Green の transfer 定理の類似で有益である。

(2.6) (Green [4] 参照)  $N = N_G(P)$  とし、 $B_p$  の corestriction algebra  $(\text{Corp}^N B, P_p^N) \in (\tilde{A}, P_p^N)$  と記すことにする。このとき、interior  $N$ -algebra として  $A(p)$  と  $\tilde{A}(p)$  は同型になり、特に  $A(p)^N$  と  $\tilde{A}(p)^N$  は algebra として同型になる。

(証明)  $A^G$  内にて 1 を次のように直交原始中等元分解する

$$1 = e_1 + e_2 + \dots + e_r + e_{r+1} + \dots + e_n$$

但し、

$$e_i \text{ の defect group (Dier)} \begin{cases} \cong P & i=1, 2, \dots, r \\ \not\cong P & i=r+1, r+2, \dots, n \end{cases}$$

$A^G \subset A^N$  であり  $e_i$  を更に  $A^N$  内で直交原始中等元分解してよく、

$$e_i = f_{i1} + f_{i2} + \dots + f_{in_i}$$

[6] 1.9 の論法を用いて、 $1 \leq i \leq r$  に対して、

“  $f_{i1}$  の defect group が  $P$  かつ  $f_{ij}$  の defect group が  $P$  ではないものは  
 小さい ( $j=2, 3, \dots, n_i$ ) ”

と仮定してよい。そこで

$$f = f_{11} + f_{21} + \dots + f_{r1}$$

とおくと  $f$  は  $A^N$  の中等元となり  $1-f \in I^P(A) = \sum_{Q \subset P} A_Q^P + m_A^P$  となる。

一方  $fAf \oplus fA(1-f) \oplus (1-f)Af \oplus (1-f)A(1-f) = A$  であり上のことを用いて

$$fAf(P) \cong A(P) \quad (\text{interior } N\text{-algebra として})$$

が示される。一方  $\tilde{A}^N$  内で  $1 \in$  直交原始中等元分解あり

$$1 = \tilde{f}_1 + \tilde{f}_2 + \dots + \tilde{f}_s + \tilde{f}_{s+1} + \dots + \tilde{f}_m$$

$$\text{但し、} \quad \tilde{f}_i \text{ の defect group (Dier)} \begin{cases} \cong P & i=1, 2, \dots, s \\ \not\cong P & i=s+1, \dots, m \end{cases}$$

全く同様にして、 $\tilde{f} = \tilde{f}_1 + \dots + \tilde{f}_s$  として

$$\tilde{f}\tilde{A}\tilde{f}(P) \cong \tilde{A}(P) \quad (\text{interior } N\text{-algebra として})$$

が成立する。

今  $(A, P_P^G) \in N$  に制限した  $\tilde{f}$  の  $\tilde{f} \in (\text{Res}_{\tilde{A}}^G A, (P_P^G)_N)$  とする。また



A 内  $\tau: e_{gg'} = g \circ 1 \circ g'$  ( $g, g' \in [G/p]$ ) を考え、 $\tilde{A}$  内  $\tau: \tilde{e}_{gg'} = g \circ 1 \circ g'$  ( $g, g' \in [N/p]$ ) を考えよ。

$$\beta: \tilde{A} \longrightarrow \text{Res}_N^G A$$

$$\begin{array}{ccc} \downarrow & & \downarrow \\ \tilde{e}_{gg'} & \longmapsto & e_{gg'} \quad (g, g' \in [N/p]) \end{array}$$

よする  $\beta$  は  $(\tilde{A}, P_P^N) \in (\text{Res}_N^G A, (U_P^G)_N) \wedge$  direct embed. する。

更に  $\beta(1) = \text{Tr}_P^N(e_{11})$ ,  $\beta(\tilde{f}) = f$  が成立して  $(\tilde{f} \tilde{A} \tilde{f}, (U_P^N)^{\tilde{f}})$  と

$(fAf, (U_P^G)^f)$  は interior  $N$ -algebra として同型になる。よって完全に証明された。

この補題を用いて一般の場合の定理 2.3 を証明する。

(定理 2.3 の証明)  $G$  における  $P$  に対する通常の Brauer homomorphism  $\epsilon$

$S$  とし、 $N = N_G(P)$ ,  $C = C_G(P)$  とする。このとき定義より次の

homomorphism  $P_P$  が存在する。

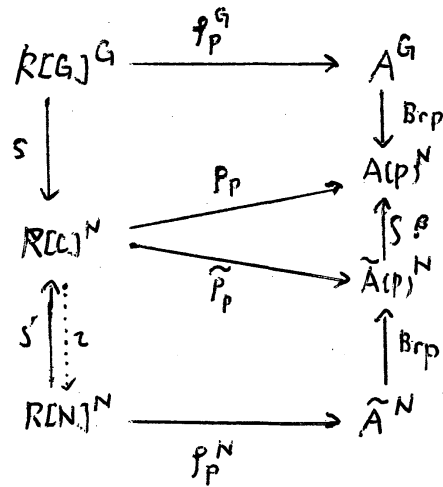
$$\begin{array}{ccc} R[G]^P & \xrightarrow{P_P^G} & A^P \\ \downarrow S & \circlearrowleft & \downarrow \text{Br}_P \\ R[C]^N & \xrightarrow{P_P} & A(P)^N \end{array}$$

同様に次の diagram を作る

$$\begin{array}{ccc} R[N]^P & \xrightarrow{P_P^N} & \tilde{A}^P \\ \downarrow S & \circlearrowleft & \downarrow \text{Br}_P \\ R[C]^N & \xrightarrow{\tilde{P}_P} & \tilde{A}(P)^N \end{array}$$

よするが (2.6) の  $A(P)^N$  と  $\tilde{A}(P)^N$  との同型写像を  $\beta$  とおくと、

次の diagram が可換になる。



更に  $s$  を  $R[G]^N$  から  $R[N]^N$  への包含写像とすると  $\text{Br}_p \circ s = \text{id}$  とする。

(2.5) より  $\text{Br}_p \cdot P_p^N(e') \neq 0$ . (但し  $e'$  は  $R[N]^N$  の原始中等元) が成立する。

今  $e' = s'(s(e))$  とおくと

$$\text{Br}_p P_p^N(e') \neq 0$$

より上の可換性から

$$\tilde{P}_p s'(e) \neq 0$$

よって  $f_p \cdot s(e) = \text{Br}_p P_p^G(e) \neq 0$  が示されて、完全に証明

された。||

### 3. 応用

1 で注意した interior  $G$ -algebra と  $KG$ -加群の関係を用くと、容易に、定理 2.2 から定理 2.1 を導くことができる。更に  $K$  が代数的閉体の場合、定理 2.2 はもう少し拡張することができる。

系 3.1  $\mathcal{O}$  の商体  $K$  が代数的閉体とし、 $P \in G$  の  $p$ -部分群、 $B_P \in \text{interior } P\text{-algebra}$  と  $B^P$  が local、 $B^P$  の原始中等元 1 の defect group が  $Q \leq P$  と仮定する。この時  $B_P$  の corestriction algebra  $\in (\text{Cor}_P^G B, f_P^G)$ 、defect group が  $Q$  を含む任意の  $RG$  の centrally primitive idempotent  $e$  とすると、 $f_P^G(e) \neq 0$  となり更に  $f_P^G(e) = f_1 + \dots + f_r \in (\text{Cor}_P^G B)^G$  内で互に原始中等元分解すると、ある  $f_i$  に対し  $f_i$  の defect group は  $Q$  となる。

(証明) Higmann の criterion の corestriction algebra への一般化と Green の定理の corestriction algebra への一般化 ([1] Ch II, 3.7 又は [6] (2.9) 参) を用いてある interior  $Q$ -algebra  $B'_P$  と  $B'^Q$  は local、 $B'^Q$  の原始中等元 1 の defect group が  $Q$  となるものがある。  $B_P$  は  $(\text{Cor}_P^G B', f_P^G)$  と interior  $P$ -algebra として同型になることがわかる。よって、 $(\text{Cor}_P^G B, f_P^G)$  と  $(\text{Cor}_Q^G B', f_Q^G)$  は interior  $G$ -algebra として同型になるから定理 2.2 が適用される。  $\square$

従って定理 2.1 を導いた方法と全く同様にして、次の系をえる。

系 3.2  $\mathcal{O}$  の商体  $K$  が代数的閉体とし、 $P$  が  $G$  の  $p$ -部分群、 $V$  は vertex が  $Q \leq P$  となる直既約  $RP$ -加群と仮定する。この時、defect group が  $Q$  を含む任意の  $G$  の block  $B$  に対し、 $V^G$  の直既約直和因子  $\tau$  vertex が  $Q$  となりかつ  $B$  に属しているものが存在する。

更に系 3.2 に於いて、 $R \in K$  に係数拡大することによって、 $KG$ -加群の場合へと拡張することができ次の系をえる。

系 3.3  $\phi$  の商体  $K$  が *splitting field* とし、 $W \in$  既約  $KP$ -加群で  $B \in$  defect group が  $P \in$  含む  $G$  の  $\phi$ -ブロックとする。この時  $W^G$  の既約因子で  $B$  に属しているものが必ず存在する。

( 参考文献 )

- [1] M. Broué, Illinois Univ. での講義録
- [2] M. Broué and L. Puig, Character and local structure in  $G$ -algebras, J. Alg. 63 (1980), 306-317
- [3] D. Burry, The distributions of modular representations into blocks, Proc. of. A. M. S. 78 (1980), 14-16
- [4] J. A. Green, A transfer theorem for modular representations, J. Alg. 1 (1964), 73-84
- [5] L. Puig, Sur theoreme de Green, Math. Z. 166 (1979) 117-129
- [6] 津島行男, modular 表現の現状と問題, 教理研究究録 429 (1981), 22-36